

“好きを学びに、社会とつながる” ロボットプログラミング教室を展開

夢見る株式会社 大阪府堺市

関西発の教育系ベンチャー、夢見る株式会社は2014年、他社に先駆けいち早くロボットプログラミング教室「ロボ団」を立ち上げた。

ロボ団では子どもの好奇心・興味を学びのきっかけとして、プログラミングや算数、理科だけでなく、協調性、コミュニケーション能力、やり遂げる力、論理的に表現する力など、社会で必要となる様々な能力を養っている。

また、ロボットコンテスト「WRO (World Robot Olympiad)」に毎年参加しており、国際大会出場チームを2年連続で輩出するという快挙を成し遂げている。さらにJAXA (宇宙航空研究開発機構) や鉄道会社など様々な企業・団体と教材コンテンツを共同開発するとともに、アジアを中心に海外展開も進めるなど、社会や世界で通用する子ども達の教育に力を入れている。

会社概要



会社名：夢見る株式会社
所在地：大阪府堺市北区中百舌鳥町5-6 中百舌鳥駅前ビル5F
電話：072-258-8111
創業：2012年11月
代表者：代表取締役 重見 彰則
資本金：1億2,925万円
従業員：22名 (正社員)
事業内容：ロボットプログラミング教室、教育コンテンツ制作、英会話教室
URL：<http://www.done-school.com/>



なかもず本校

子どもの好奇心・興味を学びにつなげる

2020年度の小学校でのプログラミング教育必修化を契機に、各地にプログラミング教室が急増している。中でも全国にプログラミング教室をフランチャイズ (以下、FC) 展開する夢見る株式会社は先駆的な存在である。

同社は大阪府堺市を本拠地とする教育系ベンチャーだ。重見社長は創業以前、コンサルティング会社で様々な企業の事業再生に携わってきた。しかし、多くの企業で自社を持続的な成長に導ける社内人材がいないうことに気づき、これからの社会には自律的に学べる人材の育成が必要と痛感。また、学生時代に携わった青少年育成ボランティアでの活動経験から、小学校低学年までの子どもを中心に、彼らの好奇心・興味を学びにつなげ、社会や世界に通用する人材を育てたいと考え、独立を決意した。

2012年11月に同社を設立し、2013年4月に「学童保育のdone.」を開始。単に子どもを預かるのではなく、英会話教室や理科実験教室など、様々なイベントの開催を試みた。

同年、自由民主党の教育再生実行本部が「グローバル人材育成のための3本の矢」を打ち立てたのを機に、理数教育、ICT教育も行いたいと考え、2014年、他社に先駆けてロボットプログラミング教室「ロボ団」を立ち上げた。

社会で必要となる様々な能力を養う「ロボ団」

ロボ団では、教育版レゴ®マインドストーム®EV3という教材を使用し、課題に沿ってロボットを組み立て、プログラムを作成して実際にロボットを動かす。「ロボットを動かしたい」という好奇心が学びの動機となり、プログラミングや算数、理科に対する学習意欲や集中力を高めている。

また、2人組のペアで課題に取り組むため、わからないことがあってもまず自分達で考えるようになり、協調性やコミュニケーション能力、最後までやり遂げる力が育まれる。レッスンの最後にはプレゼンテーションもあり、論理的に表現する力や発信力など、社会で必要となる様々な能力も養う。なお、ロボ団の団（ダン）は、団結、団体、そして「できた」「やり切った」の「done.」の意味が込められている。



レッスンではペアで課題に取り組む

ロボットコンテストの国際大会に2年連続出場

ロボ団では毎年、小中高校生を対象に世界各地で開催される自立型ロボットによるロボットコンテスト、WROに参加している。2018年は全国から約2,000チームが地区予選に出場し、130チームが決勝大会に、うち16チームが国際大会に進出した。ロボ団はそのうち決勝大会に18チームを、国際大会小学生部門に2チームを輩出するという快挙を成し遂げた。2019年もロボ団からは中学生部門1チーム、小学生部門2チームが日本代表として11月の国際大会に出場する。

“世界でも勝負できる子どもを育てる”を当初のコンセプトとして立ち上げたロボ団が、開始5年目にしてWRO国際大会に出場できたことは、同社にとって大きな手応えとなっている。また、2年連続で堺市のなかでも本校から出場者を輩出しており、教育水準が高い地域とのイメージ定着にもつながることから、出場メンバーが通う小学校からも喜ばれているという。

近年は中高一貫の進学校にもレゴ®のロボットを使う部活が設けられており、ロボ団から同校を受験する生徒も増えている。

子どもの成長と向き合うロボ団の講師

ロボ団はFC校を含め国内外に約110校を展開しており、子ども達の理解度を見える化するシステムを構築することで、教育サービスの水準維持、品質管理を図っている。ロボ団からWRO国際大会に出場する3チームのうち、1チームがFC校からの出場であることが、その成果を物語る。

無論、社長の想いに共感する人々がFC、スタッフとして参画していることは言うまでもない。

また、ロボ団の講師は子どもと同じ目線で対話し、彼らの成長に向き合う必要がある。プログラミングは後から学べるが、人格や適正は学んで身につくものではない。そのため、テーマパークや大手衣料品販売店など、ホスピタリティを備えたサービス業経験者も教室長として採用している。

魅力あるコンテンツの提供とさらなる海外展開

2018年、同社は宇宙をテーマにJAXAと教材コンテンツを共同開発し、新聞等でも報道された。認知度の高いJAXAとのコラボレーションは、保護者への訴求効果も大きく、その後開催された体験イベントは大勢の参加者で大盛況となった。

今年は鉄道沿線への展開の布石として、近畿日本鉄道株式会社ともコンテンツを共同開発し、11月には学研奈良登美ヶ丘校も開設予定。子育て・教育面からの沿線価値の向上にも取り組む。

比較的規模の小さい同社は、機動性・柔軟性を発揮して様々な企業・団体と魅力的なコンテンツを共同開発し、ロボ団のコンセプト“好きを学びに、社会とつながる”の実現にまい進している。

また、香港やタイにもFC展開しており、今後もアジアを中心にさらなる海外展開を計画中。社長は「ロボ団主催のロボコン『ダンカップ』の国際大会を日本で開催し、日本の子ども達が国内にいながら海外の子ども達と競い合える環境を提供したい」と抱負を語る。

（前田 徹、橋本公秀）